

# 編集の序

若い頃に米国に臨床留学するにあたり、ある上司に「アメリカなどに行っても、透析は圧倒的に日本の方が進んでいるから、勉強にならないよ」と言われたことがある。そのときには、その言葉があまりピンと来なかったのだが、今思えば、なぜ、ピンと来なかったのか、理由がわかる。それは、日本の透析はあまりにルーチン的な流れ作業のような処方が多く、あまり頭を使うことがなかったからだ。一方、米国では、透析医療はお金のかかる医療であること、一部の貧困層の患者のアドヒアランスが非常に悪いことなどから、いかに安く、短時間で効率の高い透析ができるのかを常に考える必要があったからである。私にとって、米国での経験は、日本での当たり前を見直す重要な機会となった。日本では“ウルトラピュア”な透析液や、HDF治療、ナファモスタットなどは“当たり前な”治療となっているが、それらの有効性を支持するグレードの高いエビデンスはほとんどないことに愕然とする。

しかし、エビデンスの有無をここで問題にすることはやめるにしても、「当たり前と思っていることが実は当たり前ではないかもしれない」ということに気づかせてくれる教科書、しかも、臨床を行ううえで実用的な血液浄化療法の本の必要性を常々感じていた。そのなかで羊土社の保坂早苗さんから、本書の企画を受け、それに乗ったのが本書ができるきっかけである。

私は偉そうに編集の序を書かせていただいたが、本書は実質的には聖マリアンナ医科大学病院の血液浄化のリーダーとして活躍している櫻田勉講師の強いリーダーシップの下に実地臨床に勤しんでいる若手医師達による共同作業によってつくられたのである。実地臨床に常に現役として悩んでいる若手医師が一番、どのような教科書が欲しいかのニーズを知っている。そのうえで櫻田先生のような経験豊富な上級医が十分な推敲をして完成させた傑作となっていると自負している。是非、読者の方々の日々の臨床に役立てていただきたい。

2013年5月

聖マリアンナ医科大学病院腎臓・高血圧内科  
柴垣有吾